

令和5年1月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km²)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	5,669	8,908	4,539	4,369	△ 9	△ 19
2 千 石	3,998	6,766	3,452	3,314	25	24
3 内 山	5,652	7,903	4,212	3,691	△ 12	△ 15
4 大 和	3,522	6,656	3,294	3,362	△ 14	△ 26
5 上 野	7,404	15,392	7,524	7,868	1	△ 1
6 高 見	7,290	13,153	6,291	6,862	△ 15	△ 27
7 春 岡	6,939	10,923	5,760	5,163	△ 17	△ 21
8 田 代	11,306	21,825	10,432	11,393	△ 19	△ 38
9 東 山	10,254	19,117	9,335	9,782	△ 35	△ 47
10 見 付	4,587	8,528	4,267	4,261	△ 9	△ 8
11 星 ケ 丘	3,544	6,845	3,046	3,799	1	△ 4
12 自 由 ケ 丘	3,538	7,236	3,293	3,943	△ 10	△ 10
13 富 士 見 台	6,513	15,241	6,933	8,308	7	9
14 宮 根	3,851	8,149	3,782	4,367	15	17
15 千 代 田 橋	3,735	8,314	3,915	4,399	9	9
千 種 区 計	87,802	164,956	80,075	84,881	△ 82	△ 157
R4.1.1	86,656	164,942	80,028	84,914	75	13
対 前 年 比	1146	14	47	△ 33	△ 157	△ 170
名 古 屋 市	1,144,071	2,324,970	1,141,201	1,183,769	△ 181	△ 976
愛 知 県 (R4.12.1)	3,295,645	7,495,199	3,732,903	3,762,296	723	△ 1,735

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	86	136	△ 50	832	939	△ 107

【参考】

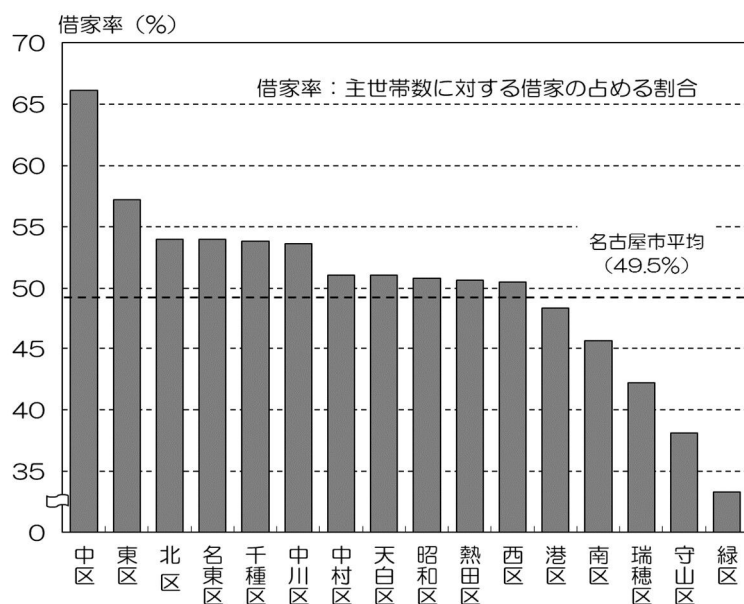
国勢調査千種区人口				これまでの最大人口と最小人口(千種区)	
昭和60年	163,762	平成17年	153,118	最大人口	173,598 (昭和50年2月1日)
平成2年	156,478	平成22年	160,015	最小人口	146,727 (平成11年4月1日)
平成7年	148,847	平成27年	164,696		
平成12年	148,537	令和2年	165,245		

注) 世帯数と人口は、令和2年国勢調査結果確定値を基礎とし、毎月の住民基本台帳人口の異動数を加減して推計したものである。

千種区の借家率および持ち家率と他区との比較

令和 5 年 1 月 1 日現在の千種区の世帯数は 87,802 世帯、人口は 164,956 人となっています。今年は 5 年に一度行われる住宅・土地統計調査が予定されており、前回平成 30 年調査の内容の一部を振り返ってみたいと思います。

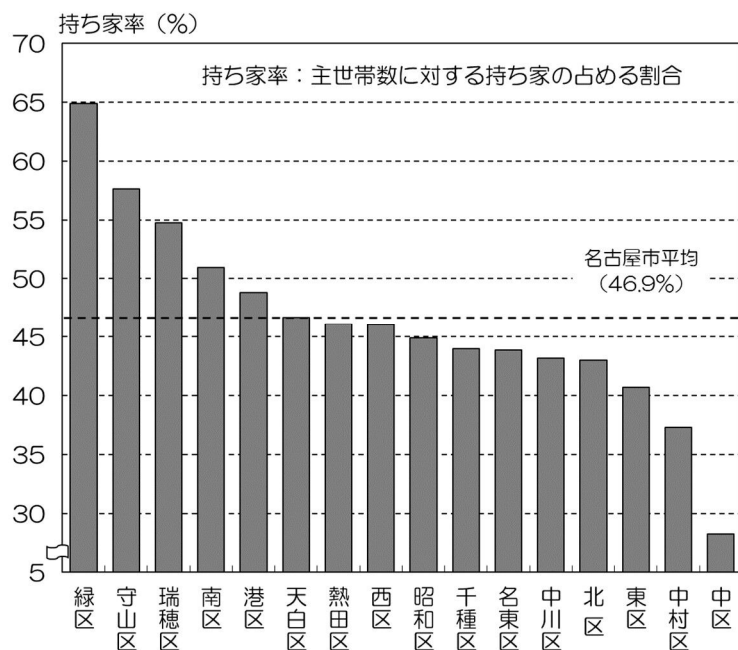
図 1:各区の借家率（平成 30 年 10 月 1 日現在）



平成 30 年 10 月 1 日現在の各区の借家率（主世帯数に対する借家の占める割合）を高いほうから見てみると、中区が 66.1%と最も高く、東区（57.2%）と続き、千種区は 53.9%で 5 番目でした。低いほうから見てみると、緑区が 33.3%と最も低く、守山区 38.1%、瑞穂区 42.2%と続きます。

全体的に見てみると、地価の高い名古屋市の中心部は借家率が高く、地価の低い郊外は借家率が低い傾向が見られます。

図 2: 各区の持ち家率（平成 30 年 10 月 1 日現在）



平成 30 年 10 月 1 日現在の各区の持ち家率（主世帯数に対する持ち家の占める割合）を区別に見てみると、千種区は 43.9%と 16 区中 10 番目となっています。

持ち家率が高い区を見てみると、緑区が最も高い 64.9%、次いで守山区（57.7%）、瑞穂区（54.8%）となっています。

最も持ち家率が低い区は中区で 28.3%と、名古屋市の平均よりも 20%程低い値となっています。